

最終更新日 H24.10.24
改修技術 No. 15101201

性能分野	高齢者対応					
大分類	高齢者対応					
中分類	共用部のバリアフリー化/スロープの設置					
技術の名称	アプローチにおけるスロープの設置					
改修技術の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・アプローチから住戸入り口まで車いすや高齢者が通りやすい通路に改修する。 ・つまずきの原因となる床面の段差を解消しつつ、共用部として高齢者以外の住民も快適に使用できるアプローチとしてのデザインも望まれる。 ・一般的な施工は、最初にスロープの設置予定の場所にある既存物を撤去し、床のコンクリートを施工するのに必要な深さ分の掘削を行い、配筋・型枠作業がしやすいように敷均し、捨てコン打ちを行う。その上で荷重に必要な配筋及び型枠工事を実施し、コンクリートを打設する。表面仕上げ舗装は、ホウキ目地、タイル、塗装、インターロッキングブロック等がある。 					
	<p>改修事例</p> 	<p>施工手順</p> <table border="1"> <tr><td>既存部撤去</td></tr> <tr><td>敷均し</td></tr> <tr><td>土間配筋、型枠</td></tr> <tr><td>コンクリート打設</td></tr> <tr><td>床仕上げ工事</td></tr> </table>	既存部撤去	敷均し	土間配筋、型枠	コンクリート打設
既存部撤去						
敷均し						
土間配筋、型枠						
コンクリート打設						
床仕上げ工事						
共同住宅のタイプごとの技術の適用	技術の種類	調査・診断技術 改修技術（ 劣化を補修する技術 性能を向上させる技術）				
	共同住宅のタイプごとの適用可能性	S55 年以前供給 中層階段室・壁式(総プロA1)	使われる可能性が相当ある			
		S55 年以前供給 高層・ラーメン(総プロA2)	使われる可能性が相当ある			
		S56～H2 年供給(総プロB)	使われる可能性が相当ある			
		H3～12 年供給(総プロC)	使われる可能性が相当ある			
		H13 年以降供給(総プロD)	現在の技術水準と同等であること等から、適用が望まれるケースが少ない			
(補足) スロープの設置場所が確保できる場合						

常にセットで利用される技術		
技術が適用される建物の部位		共用部分 (躯体・外壁 屋根 建具 設備・配管等 その他共用部) 専有部分 (設備・配管 その他専有部分) [設置・運営等で建築基準法以外に注意すべき主な法令がある設備 () 注意すべき主な法令 ()]
団地で適用した場合のメリット		住棟まわりの土地が利用できること (仮設以外) (適切な勾配のスロープが設置可能) まとまった土地が利用できること (仮設以外) () 住宅の数が多く密度が高い () 特定の設備があること ()
足場の設置が必要		必要 不要 ()
工事による居住者への影響	数日以上居住できない住戸が発生	該当 非該当 ()
	一時的な影響が発生	断水などライフラインが一時的に利用不可 振動 騒音 粉塵 臭気 その他専有部分又は専用使用部分に対する制限 ()
	工事後に続く影響が発生	専有部分又は専用使用部分の使用に対する制限 () 日照・採光等への影響 ()
当該技術が利用される工事		計画修繕工事 (劣化の補修 性能の向上) 耐震改修工事 (耐震性の向上 他の性能の向上)
技術的限界		
参考資料	技術情報	高齢者が居住する住宅の設計マニュアル ((財)高齢者住宅財団)
	価格情報	